

## おわりに

学校は社会の変化に対応して、常にその最前線に立つ教育機関の一つである。

少子・高齢化が進む中で、教育の基本としては、生きる力の育成や家庭・地域社会との連携が重視され、最近では学力の向上が問題となっている。さらに、地域社会の学校運営参加や学校選択制などが現実的な課題となっており、東大和市の学校教育においても、そうした時代の要請に応えていくことが望まれる。特に少人数学習指導は、全国的に広がりを見せしており、当市でも1学級を二つの集団に分けた授業を先行して取り上げ試行している。また、各教科にわたり授業の方法も変化してきていることなどを考えれば、今後は、一層多様な展開が可能な学校施設が求められることを視野に入れる必要がある。

本審議会はそれらの観点に立って、今後、実現が見込まれるあらゆる状況に学校施設がゆとりを持って対応出来るよう整備され、児童・生徒の適切な教育の場として提供されることを念願して審議を行った。

そして、当面の解決すべき課題と中・長期的な視点から解決すべき課題に分けて答申としたところである。

しかし、当面の解決策の実現のみでは、東大和市をはじめ、東京都や国それぞれの次代を担う子ども達の望ましい教育環境を整えと云うことから道遠しの感がある。各委員の願いとしては、将来にわたって解決すべき事項の実現に大きな期待をかけるものである。

したがって、学校施設の規模の適正化、適正配置については、東大和市の教育の重要な課題として時代を先取りするとともに、最重点施策として今後とも積極的に取組まれ、市民の理解や協力を得て、早期実現に努められるよう切望するものである。